

井村屋グループの環境改善取り組み

特にバイオマスボイラー導入と活用について

バイオマス熱利用ユーザー協会・準備会設立シンポジウム
2025年11月12日

1.企業紹介

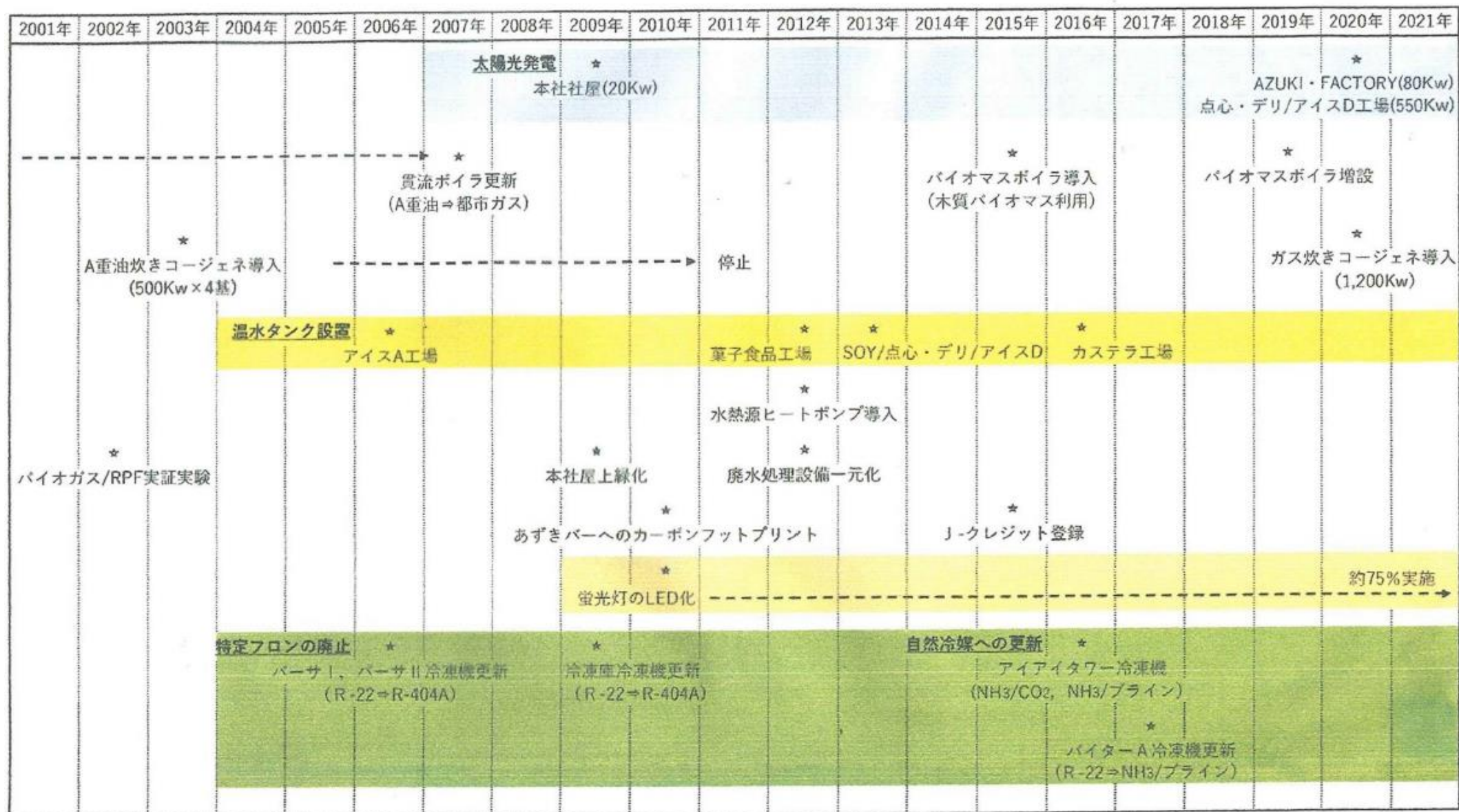
井村屋グループは菓子・食品・デイリーチルド・冷菓（アイス）・肉まん・あんまん・冷凍食品・冷凍菓子・スイーツ・調味料など幅広いカテゴリーを扱っています。

常温・チルド・冷凍の製造・開発技術を持ち・その販売ルートを持っていることは強みの一つです。そして、これらの開発・生産・販売をコラボレーションしてシナジー効果を高められることも大きな特徴です。

また、商品づくりの重要な考え方に、創業者井村二郎の経営ポリシーである“特色経営”と“不易流行”があります。“特色経営”は常にオリジナリティを追求する姿勢を大切にする、“不易流行”は変えるべきことは勇気をもって変え、変えてはいけないことは頑なに守る、という考えを受け継ぎ、新しいことに挑戦し独創性ある商品開発に取り組んでおります。



環境保全対策の推移



2. バイオマスボイラー導入経過と目的

“エコロジカルはエコノミカル”を基本にライフサイクル全体の環境負荷低減(CO2削減)とコスト削減の両立を目指し、生産工程を基軸に従来から省エネの取り組みを進めて参りました。
更に2012年度頃から再生エネルギーとしても木質バイオマスの利用を検討し、CO2 削減を主な目的としてバイオマスボイラーの導入を決め2015年5月に稼働開始しました。
また、生産量のアップと共に蒸気使用量も増加したため、2019年2月に増設致しました。

1)能力

燃料調達

三重県中心に12社

建築廃材チップ
製造・運搬



熱製造: バイオマスボイラ

	2015	2019
貫流ボイラ	1.0t/h×3基	1.0t/h×1基
廃熱ボイラ	3.0t+1.5t/h1基	1.5t/h×1基

計2019年2月より 10t/h 能力 稼働

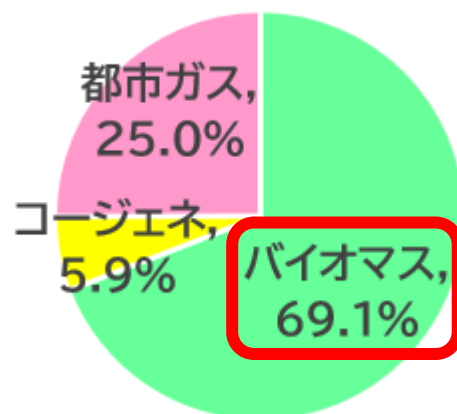
※化石燃料ボイラ 貫流ボイラ2.5t/h×6基

バイオマスボイラー設備



燃料を『都市ガス』から『木質チップ』へ変更することで、年間 5,000t以上のCO2排出量削減効果が得られた。

2024年度蒸気比率



《木質チップの供給》

常時、10数社との木質チップ購入契約を行い対応。

《バイオマスボイラーの故障や蒸気不足への対応》

生産に必要な蒸気量を賄うことができるガス炊きボイラーを確保することで対応している。

2.5 t 都市ガス炊きボイラー：5基

2.0 t 都市ガス炊きボイラー：2基

気候変動の緩和

気候変動の適応

新たな取り組み

2)稼働状況

バイオマスと化石燃料(都市ガス)と兼用で稼働し、通常時はバイオマスボイラーを基本に24時間フル稼働させ、不足分及び急激な蒸気量変動に対応し供給しております。

なお夜間低負荷時にはバイオマスボイラーが自動で燃料の供給を調整して対応しております。

【2024年度実績 バイオマスボイラー70%・都市ガス30%】

3)蒸気使用状況

平均8t/hを使用していますが、生產品目の変動あり最大使用量は13t/h前後となり都市ガスボイラーを活用しております。

【カテゴリー別、バイオマス熱利用率】

・菓子事業	100%・・・あずき炊き・あん煮詰め
・食品事業	100%・・・ぜんざい煮詰め
・点心・デリ事業	100%・・・あん炊き・蒸し工程
・デイリーチルド事業	100%・・・レトルト殺菌等
・スイーツ事業	100%・・・蒸す商品

3. コージェネレーションシステム

- ・導入目的はBCP対策の一環として・停電時の電力確保、及び地域の方に対して水の供給、携帯電話の充電基地としての貢献です。
- ・仕様はガスタービン・内燃力発電
 - ・・・ガスエンジン(都市ガス)／発電能力1,200kVA
 - ・・・廃熱回収し蒸気ボイラー1t／h 稼働(常用)

4.コスト(回収期間)

2015年 導入

- …バイオマスボイラー：還流ボイラー 1.0t:3基
- …廃熱ボイラー：3.0t:1基 1.5t:1基
- …投資金額：総額 420百万円（建物改造含む）

2019年 導入

- …バイオマスボイラー：還流ボイラー 1.0t:1基
- …廃熱ボイラー：1.5t:1基
- …投資金額：総額 200百万円（建物改造含む）

*回収に関しては年間維持費／メンテナンス費(清掃含む)及び償却費 換算し≒7年です。

ボイラーの種類↩	稼働率↩	メンテナンス周期↩
バイオマスボイラー↩	※90%↩	※炉内掃除（1回／週）↩ 年次1回↩
都市ガスボイラー↩	※90%↩	※ボイラーメーカー契約↩

メンテナンス:自社内メンテナンス、外注